

- 会議名 令和元年度 第1回思春期保健ネットワーク会議
開催日時 令和元年7月2日(火) 19:00~21:30
開催場所 八千代市保健センター
会議次第 1 開会
2 委嘱状交付
3 会長選出
4 議題
(1) 委員自己紹介及び所属母体の活動紹介
(2) 思春期保健ネットワーク会議の位置づけ
(3) 思春期保健の現状と課題, 今後の取り組みについて
5 事務連絡
6 閉会

出席者

(委員) 柳堀厚・土井弥寿子・鶴岡利江子・宮崎秀典・中嶋弘典・榊奈都美・内田颯一
・原久見子

(事務局) 母子保健課 中村あゆみ・長谷川恵美・川崎絵美子・松枝恩

欠席者

和田真沙美

公開非公開の別 公開 傍聴人0人

- 1 開会
- 2 委嘱状交付

事務局中村: 思春期ネットワーク会議設置要領第4条に則り, 委嘱状の交付を行う。委嘱状の交付は, 委嘱式を省略し, 皆様の机の上に配布。思春期保健ネットワーク会議の委員の紹介, 委員一覧を参照。

- 3 会長選出

事務局中村: 次第3の会長選出に移る。会長に立候補, もしくは推薦があればお願いしたい。
鶴岡委員: 柳堀先生にお願いしたい。

事務局中村: 柳堀委員という声があがっているが, 賛同いただける方は拍手でお願いしたい。

全委員: (拍手) 賛同

事務局中村: では, 柳堀委員に会長をお願いする。就任の挨拶をお願いしたい。また, これより会の進行もお願いしたい。

柳堀会長: これから2年間お願いします。この会を続けて来て, これだけ委員が集まるのがめずらしい。この2年間でこれからの方針を決められたらと思う。この会も岐路に立っているので, 今までの流れを事務局から話してもらおう。この会議はかしこまらずに, 皆が意見を出し合える会にしたい。八千代市を巣立つ子ども達が正し

い生・性の話を聞いて成長してほしい。委員が勉強しながら、所属団体の意見を反映してほしい。

4 議題

(1) 委員の紹介及び所属母体の活動紹介

柳堀会長：では、今回初めての方が多いので、簡単に自己紹介、所属団体の紹介をお願いします。

土井委員：初参加。どいこどもクリニックを開業している。子どもを診て28年、八千代市にて開業20年、子どもも様々、診ていた子が子どもを産んで受診する時代にもなった。思春期というものを近くで感じ、子どもたちの心の難しさを感じながら学んでいる。ここでの会議で学んだことを診療に活かしたい。

鶴岡委員：千葉県助産師会の習志野・八千代・鎌ヶ谷地区を中心に活動。自分は元々性の話が大嫌いだった。学んで発信する立場になり、子どもに伝えることの大事さ、親目線だから伝えられることの大事さを感じている。地区全体30人ほどの助産師の中の主要メンバー6人で地域を回り習志野市・八千代市を中心に年間100件講演を行っている。

宮崎委員：PTA連絡協議会、村上中のPTA会長になったばかりで勉強中。この会に参加して学びたいと思った。古いリーフレット持っていたので、昨日見てみて、勉強したいと思った。

内田委員：八千代市教育委員会生涯学習振興課、4月に異動してきた。一から勉強となるが、勉強したことを蓄えて、仕事に活かし、発言もしていきたいと思う。

事務局川崎：母子保健課、この会は4年目。当初がシンポジウムの話ばかりだったが、各団体の活動を知らないこと、もっと情報共有してから、必要な事案を考えて、シンポジウムや情報発信に繋がりたいと思っている。

事務局長谷川：母子保健課、4月に異動。14年ぶりに母子保健を担当する。自分もこの会を通して学びたいと思う。

事務局松枝：母子保健課、会議には2年目の参加。地区を担当する中で、若年妊婦の支援あり。若年の支援の難しさを感じる。八千代市での性教育を学び、子育てや仕事に活かしたいと思う。

事務局中村：母子保健課、4月に異動。一から勉強していきたい。

原委員：母子保健課長、委員3年目。妊産婦から就学前の子どもの支援。自分の経験を振り返ってみると、社会背景も大きく変わって子育てのしづらさを実感。多機関が集まる貴重なこの会で学び、八千代市の母子保健事業に活かしたい。

柳堀会長：思春期保健ネットワーク会議設置要領第6条に、会長は委員以外の人でも呼ぶことができることあり、八千代医療センター和田医師と、秀明大学の看護学部の茅島先生と東先生に参加してもらおう。八千代市にある大学の看護学部を巻き込んで、

この会議を有意義にしたい。

東委員：秀明大学看護学部，助産師をしていた。看護学部で教えるようになり13年になる。

鶴岡委員と繋がりあり，浦安・市川地区の助産師会に所属している。この2～3年は小学校・中学校を回っていた。大学では思春期終わりかけの子たちに関わっている。自分が初めてお産を取り上げたのが，17歳，高校2年生の子だったが，それを機会に色々考えるようになった。

茅島委員：秀明大学看護学部，大学での教育経験が40年，秀明大学は5番目の大学になる。

会長と知り合ったのは千葉県思春期研究会で，熱心な先生がいると知り，自分が千葉で活動することがあれば，一緒に活動できればと思っていた。思春期学会に所属，月経の研究をしており，昨日も学生に月経の話をしたら，知らないことが多く，話して良かったと思った。性教育については，国際福祉大学に3年おり，黒羽地区がエイズ教育推進地区になっていて，委員になり小学校から専門学校まで性教育をした経験はあるが，それ以外行っていないので，東先生にお願いしている。最近思春期をテーマに学生に話し，“僕の大人への歩み”という，男の子が成長するDVDを生徒と視聴したら，学生が女子ばかりで，男の子の性の目覚めを知らないことが多く，勉強になったと学生が言っていた。看護学部の学生でも性について知らないことが多いので，この思春期保健ネットワークのような活動を広げないといけないと思った。

榊委員：八千代市教育委員会保健体育課，2年目。元々学校養護教諭で，小学校，中学校両方にいた。1校目の中学校で，性教育したいと思っていた時に，思春期保健ネットワーク会議立ち上げの会に参加。その当時は学校の先生が数人，この会に参加していた。この会をきっかけに柳堀先生と知り合い，学校に講演会に来てもらった。小学校に異動した時に，PTAで一生懸命な保護者がおり，鶴岡委員にも来てもらい，3年生に出産のこと，5年生に二次性徴について話してもらった。また，保護者の集まりにも来てもらった。この会で知り合った先生の協力を得て，養護教諭を続けられた。時代も変わり，10年前と必要なことも変わっているが，八千代の子に必要な情報を伝えていきたい。

中嶋委員：八千代市教育委員会保健体育課2年目，一般教諭。自分自身が中学生に上がった時の入学式で，担任が“君たちはこれから人間探し，自分探しの旅にでる”と言われた。自分が大人になっても，自分探し，人間探しの旅がまだ続いていると，日々感じる。昨年のシンポジウムで多様性のことを聞いた時に，受容しきれないキャパの小さい自分がいたことに気づいて，成人式を2回終えているのに，思春期が終わっていない精神年齢でいると感じている。今後も色々勉強したい。医師にはこれからも子ども達の為に，より良い経験のため学校に講師に来てもらいたいと願っている。

柳堀会長：教育，行政，保護者，医療の代表が集まっている。発足当初から参加している者

として思うのは、この会は本当に勉強になる。専門は更年期、漢方だが、思春期をみることが多いことから、八千代市で思春期の会議を設けるとなった時に、参加に至った。今まで医療の立場からの思春期だけしか見ていなかったが、教育現場の意見、助産師会からの視点を知る学びの場であり、皆さんも2年経った時に、知識が充実すると思う。

(2) 思春期保健ネットワーク会議のこれまでの取り組み

柳堀会長：これからの進行について、まず事務局からこれまでの経緯を話してもらい、次に明日、私が中学校で講演する話を皆さんに披露する。今、婦人科医が中学校にこのような話をしていると知ってもらえれば、この会の方向性も伝わると思う。そして2回目以降、委員の皆さんの分野を勉強する意味で、時間を決めて話をして欲しいと考えている。

第1回目の思春期保健ネットワーク会議の会長になった時に言ったことだが、この会議を事務伝達のための会議にしたいくない、実践を伴わないのであれば、紙面を配って終わればいい。参加して体験して、一つでも学びを持ち帰ってもらえるような会議にしたいと思っている。では、事務局から経緯について話す。

事務局中村：最初に思春期保健ネットワーク会議の位置づけについて。会議資料2の思春期保健ネットワーク会議設置要領を参照。冒頭第1条にこの会議の目的の記載がある。「市は、「八千代市第2次健康まちづくりプラン」に掲げている行動目標の、思春期の子が性と性問題について適切に判断し行動することに関する取り組みを推進するため、八千代市思春期保健ネットワーク会議を設置する。」としている。

改めて、第2次健康まちづくりプランについて、確認する。添付資料1を参照。第2次健康まちづくりプランの抜粋となる。このプランは、平成25年度から34年度までの計画となっており、昨年度1月に中間評価の結果や社会的変化をふまえ、改訂版を策定するとともに、自殺対策基本法に基づく市町村計画となる「八千代市いのち支えるまちづくりプラン」を策定し一体的に推進している。サブタイトルとして、「世代を超えたまちづくり 心も体も健康に」としている。まちづくりプランは、健康増進法に基づく市町村健康増進計画となり、八千代市第4次総合計画を上位計画とした市民の健康づくりのための基本計画となっている。また、国が示している健やか親子21（第2次）との整合性も図る計画書となる。健やか親子21（第2次）とは、21世紀の母子保健の主要な取り組みを提示するビジョンであり、関係者や関係機関・団体が一体となってその達成に向けて取り組む、国民運動計画。市町村は、母子保健事業の主たる実施者として、関係機関・部署と連携して取り組むことが求められている。中には基

盤課題 B として、学童期・思春期から成人期に向けた保健対策というものがあげられており、市の健康まちづくりプランの思春期に関する取り組みは、健やか親子21（第2次）の取り組みにもつながっていると考える。資料の健康まちづくりプランのP20 第2節 施策の体系図の中に、すこやか親子・はつらつ成年・いきいき高齢者と世代ごとに中目標（めざす姿）と小目標（行動目標）を作っている。このすこやか親子世代の推進に母子保健課は携わっている。中目標（めざす姿）の3番目「子どもが心身共に健やかに成長している」の小目標（行動目標）の③「思春期の子は自分や他者を大切にし、生と性の課題について適切に対処します」という形で設定している。これが、思春期保健ネットワークの要領にある行動目標の推進をするために、この会議の設置が位置づけられている。行動目標③の具体的な内容については、健康まちづくりプランのP47～48〈数値目標〉〈目標に向けた取り組み〉が記載されている。個人・家庭の取り組みと地域の取り組み、そして行政・関係機関の取り組みを推進していこうと策定している。この中に記載されている実施機関による事業内容は今現在、推進している。

事務局松枝：続いて、これまでの取り組みを年表にまとめた。添付資料2を参照。

大きな柱は、①思春期の性に関するネットワークと協働、②保護者への性に関する知識と情報の提供、③思春期の子が自分の性と生を大事にするための教育の実施、④相談の充実の4点。

①思春期の性に関するネットワークと協働の部分で、平成18年8月にこの思春期保健ネットワーク会議が発足し、毎年会議を開催している。

②の保護者への情報提供では、「地域の保健・医療関係者」「学校の先生」「親」「子ども達」が『気付くこと』と『動くこと』のために思春期ネットが行うことを検討し、大人に気付いてもらう活動の一つとして思春期保健シンポジウムを平成19年から開始し、平成30年までに12回開催してきた。シンポジウムを開催するためには、講師の決定から準備まで話し合いが必要であり、思春期ネットの会議がシンポジウム実施に向けた内容で終わってしまい、本来の思春期保健について話し合う時間が取れないという課題があった。また、生涯学習振興課で実施している家庭教育講演会において、年1回、思春期の子を持つ保護者を対象とした講演会が開催されており、思春期保健の分野とテーマが重なることも多くあった。そのため、今年度は既に内容が決まっているため難しいが、今後は家庭教育講演会において、思春期保健ネットワークの活動を紹介するなど協力して保護者に向けた情報提供を行えるのではないかと話し合いがなされた。この他、紙面での情報提供として、思春期保健ネットワークの取り組み紹介と、シンポジウムに参加していない保護者に対して、内容を伝える

ため、ニュースレターを発行している。

③の思春期の子への教育の実施については、八千代市オリジナル生と性の教育教材を作成し、平成25年10月、市内全中学校に配布。オリジナル教材の利用状況は、平成29年度の調査では11校中、7校。作成当初から年数が経過し、データが古くなったことから、昨年度、データ更新について検討し、今年5月に新しいデータを配布した。各学校からアクセスできるネットワークシステムにデータを格納し、活用いただけるようにしている。④の相談の充実については、子ども向けリーフレットを作成し、平成26年度より中学生に配布している。平成27年度からは保護者への情報提供を目的に、同じリーフレットを保護者にも配布している。今年度も中学1年生とその保護者を対象に配布予定。

当初の目的に立ち返ると、着実に思春期ネットでの活動は、4つの柱に基づき推進されている。一方で、昨年度の会議の中で、ネットの立ち上げから10年以上経過し、榊委員も話していたが子どもを取り巻く環境や親子関係が著しく変化しているため、改めて思春期保健の現状と課題を考える必要があるとの方向性が出た。今年度は、会議の中で、委員さんがそれぞれの立場で実施している支援の内容や、活動の中で捉えている今の思春期のお子さんや保護者の方の現状と課題を共有していく予定。

柳堀会長：簡単に説明すると、シンポジウムが大きなテーマ、講師を呼んで、協力してくれる団体の展示をしたブースを実施。次に学校の先生が尽力してくれて作ったオリジナル教材を学校で活用。他市からも参考にしたいと連絡をうけたこともあった。子ども達に向けたリーフレットを作った事も成果。この会議で入れ替わり立ち代わり委員が参加し、勉強して色々な方面に発信してもらうことがネットワークの役割と感じている。

本来は八千代市が講師料を出して、もしくは保護者会が講師料を出して、助産師会をはじめ色々な講師を呼ぶことが理想。今年は11校中8校から依頼を受けてボランティアで講話している。その他は助産師会が話しているので、八千代市の中学校全校で話していることになる。

7/3 睦中で「思春期の男女のこころとからだの変化～お互いを大切にするために～」を話す。

(講演内容)

「(講演締めの一説) この講演で伝えたかったことは、皆さんが皆さんを含めて、周りの人が幸せになって欲しくて来ました。セックスや妊娠、結婚、出産は、きちんと条件がそろえば、十代でも皆から祝福されます。でも一人でも不幸にならないために今日の知識を活かして、皆が考えて行動をしてほしい。自分も含めて好きになって、本当に素敵な恋愛をしてほしいと思います。」

この会に参加するようになって思春期を勉強して、産婦人科医の中で思春期を勉強する会があって所属している。子ども達に伝えながら、自分が勉強になっている。また、自分の息子達に伝えられたかという、残念ながらそうでもなく、子どもが中学・高校の時には自分が性教育に興味関心がなかった。保護者から家庭でどう性教育をすべきか聞かれても、自分が実際できていないので困る。ただ、今になると、性教育を家庭でやらないといけないことでもないと思う。医療側が1時間でも大事なことを伝える機会があればいいのではないかな。八千代を巣立つ子が1回でも医師や助産師の話を聞く機会を設けてもらえればありがたいと思う。

それでは、今までのネットの活動をお伝えしたが、これからをどうするかを考えていきたい。昨年、学校の保健体育と養護の先生にアンケートを取った。思春期ネットで出来ることがないか聞いたが、特に反応がなかった。思春期ネットの当時は学校の養護や保健体育の先生の参加があったが、色々あって学校の先生の参加が難しくなった。この会が2年間で何ができるかが問われている。「何かをしよう」ではなくていい。多機関の情報を共有、連携できる場にできればいい。今婦人科医が話したことを聞いて、婦人科医がこういうことをしていると知る場でもいい。次は助産師会から鶴岡委員が行っている活動紹介や、小児科の立場で土井委員に話をしてもらい、思春期に限らず、小児科で抱えている課題など。教育委員会から直接、性のことでなくても、今話題になっていることを話すでもよいと思う。全てを話さなくても、それぞれの部署で考えている課題を話して、その中からやっていけるものがあれば。ただし、広がり過ぎると集約できないが、今年勉強する場にしたいと思っている。

これを踏まえ、一人一人から意見をお願いしたい。

土井委員：講演内容について、最初は子ども達がふざけながら聞いていても、子ども達が引き込まれる内容、感動した。小児科医ではここまで話したことない。小児科医であがる問題は虐待を含め様々。自分が前から取り組んでいることとして、診察室で母親に、友田先生という脳神経の先生が書いた、虐待がどれだけ脳へダメージを与えるかを10年くらい研究した本を渡している。直接表紙を見せると、自分が虐待していると思われるので警戒されるので、表紙にカバーをして渡し、母親だけでなく周りの父親や祖父母にも見てもらいたいと話している。

日本は性教育も含め育児は個人に任せる風習があるが、教育が大事。夫婦喧嘩は耳で聞いているが、眼で見るビジョンに影響し、脳は嫌な物を見なくなる発達をしてしまう。日本は子育てに関する教育が不十分、夫婦喧嘩を子どもの前でやってはいけないと言われても、やってしまう状況はあり、どれだけ脳に影響があるかをその本を読んで初めて知った。教育が必要だと常日頃から感じている。小児

科医の立場だが、親が厳しいしつけの環境で育ったり、夫婦喧嘩が日常にあると、それが当たり前になってしまう。自分も厳しくされたから、子どもに厳しくする意図はなく、間違っていないという認識のもとでやってしまうので、正しい知識を皆が共有することが大事だと思う。今日は大事な話を聞けて感動した。

鶴岡委員：医師目線、男性目線、父親目線での自分とは違う視点での話を聞けて感動した。助産師会で大事にしていることは、出産する前の世代からの教育。出産した母が自信がないことや、虐待して苦しむ母親にも接する。その母親が講演会に来てくれると、習志野・八千代・鎌ヶ谷地区の特徴だが、繰り返し何度も来てくれる。多い方だと10回来てくれたことも。子ども達が命の授業を聞くと、自分に自信が持てる、元気ができると言い、その様な講演会にしたいと目指している。また、子ども達が命がけで生まれた自分を大事にする子になるように話しているので、今後も医師とつながっていかれたらと思っている。

宮崎委員：自分がこのような授業を受けずに大人になった。自分の子どもがこの教育を受けて、ここまで深い知識を知っていたことを知らなかった。おそらく他の親も、自分の子どもがこの様な講演を聞いていると知らないと思うので、性についてどこまで知っているのか分からないから、親からも子どもにどこまで言っているのか悩むと思う。お父さん仲間にも聞いてもらいたい。

内田委員：学校の保健の授業で簡単に聞いた程度の知識しかなかった。今回具体的に聞けて、参考になった。

事務局川崎：会長の講演を聞くのが2回目、この内容は子ども達だけでなく、親にも聞いてほしいと常に思う。母子保健課で関わるケースは若年や、自信のない母親が多い。子どもの抱き方、授乳の仕方、一つ一つが分からない不安、それを相談する相手がいなかったため、情報をインターネットに求めて、情報が多すぎてできなくて落ちていく人をサポートしていく中で、ちゃんと基礎を学習してから、子どもを妊娠、出産しないと虐待につながることも多く、負の悪循環が断ち切れない。日々の活動でも大事なことを伝えながら関わっているが、難しさを感じている。

事務局長谷川：性教育を学校の保健体育で習ったと、子どもからは聞いているが、感想を聞いても曖昧。関わりのある保健体育の先生と話すとき冷やかしいと聞く。産婦人科の医師から聞くと、命の大切さを素直に受け止めるのではないかと考えた。

事務局松枝：避妊だけでなく不妊のことも触れていて驚いた。生涯を通じて子どもを持つことがどういうことかを、思春期の時期に正しいことを知る機会が貴重と思う。まっさらな時期に正しい知識を身につける機会があることが重要と思う。子どもの反応から親も恥ずかしくがらずに対応しないといけないと思った。

事務局中村：中学生向けと分かって聞いていても、親として聞き入った。この話を中学生時

期に聞けることは幸せ、親もこの話を聞いて、親子で話が出来ると望ましい。

子どもを産んだ時の感動が蘇った。

原委員：以前にも会長の話しと、助産師会の講演会をお聞きする機会があった。何度聞いても感動し、ほっこり幸せな気持ちになる。SNS等で多岐に渡る情報があるが、愛情や自分自身を含め、周りを大事にすることを、伝えることが大事。それが、この対面で行う授業や講演会だからこそ、できることだと思う。

東委員：避妊、緊急避妊まで踏み込めるのは医師だからか。助産師が講演する時は、依頼者側から避妊のことは話さないで欲しいと言われる。性感染症の話はするが、避妊の話ができず、中途半端になることのジレンマを感じる。健康面からの経口避妊を使う方法もあると新たな発見。家族計画協会の思春期電話相談を8年くらい受けているが、中学生の男子からの相談が多い。内容は包茎と性器の大きさとマスターベーションの相談ばかり。インターネットが波及しても、性教育が行われていても、この相談が多いことを考えると、男の子の性教育の工夫が必要と思っている。地区によっては外国人の中学生が増えている中で、感想を聞くと、分からなかったと書いている。外国人であっても同じ中学生なので、どう伝えていくのか課題。

茅島委員：性教育に必要な情報が1時間で全てつまっていた。子ども達はこの中から色々な情報を持ち帰り、何が心に残ったのか確認し、それをどうフォローするかを学校の先生ができるといいと思う。この話は本来2時間・3時間かかる内容を凝縮して話していると思うので、もっと知りたかった事があると思う。それを現場の人と繋げながら活かせると良い。大学では性感染症や避妊をそれぞれ1時間半ずつ取れるのを、1時間で音楽も使いながら行い、最後の締めくくり性の素晴らしさ、大切さで終わっていて素晴らしい。こういう締めは大事で、ネガティブではなくてポジティブに受け止められるように教育することは大事。別の話になるが、思春期早発症の看護について本を書くことになった。事例もない、看護もしたこともないため悩んでいたところ、知り合いに思春期早発症の子を持つ親がおり、中傷のSNSを流されるいじめにあったことを知り、成長には個人差があり、速い遅いを子どもたちが理解しないといけないと感じた。

榊委員：男性の医師から温かく、自然体で話してくれることで、最初は恥ずかしかったり、もじもじする場でも、子どもたちに聞き入れられる。10年前はこの内容もなかなか受け入れられない時代があったが、会長がボランティアで各学校に赴いてくれたことをきっかけにして、養護教諭は授業の時間を持っていない中で、学年主任に授業の時間を割いてもらう話を持っていけたり、つながりができたことで継続できた。教科書に載っていないことも聞いてくれるようになった。教員が教科書以上の話をするの難しさがあるが、会長がコツコツと続けてくれたことで、先生の理解も深まり、子どもにとって必要なことと分かってもらい、殆どの中学で講演をしてもらえるようになった。教育委員会で予算化するにも、法律に載っていないこ

とを通すのが難しい。今は会長の努力だけで講演会を行っている現状。教育委員会も予算が取れるように働きかけているが、思春期保健ネットワークの仕組みを使ったり、会長や助産師会の全校に講演してもらっている実績を出して、思春期ネットが産婦人科の先生に依頼して八千代市の子ども達が聞けるような体制にならないかと、個人的に思っている。学校現場アンケートで養護教諭から性の問題が一番に出てこないことについて、会長や助産師会が講演会をしてくれていることから、性の問題が一番にならない成果もあると思う。また、虐待やいじめが学校での大きい課題。虐待を起さないように親の教育をどうするかも問題。自己肯定感も関係するのか、温かい家庭の雰囲気を感じられると、虐待が予防できるのではないかと、すべて漠然としているが色々考えたいと思った。

中嶋委員：会長の話に興味を持った言葉が二つあり、一つは「分娩室では皆笑顔」という言葉で、分娩室が笑顔でスタートしたのならば、子どもを取り巻く環境は笑顔でないといけない。子どもの将来を笑顔にするには、学校もその延長、教室でも笑顔でないといけないと思っている。教師の立場で、家庭の笑顔に関われるか考えた時に、どんな小さいことでも、子どもの成長や何か良いことがあったら親に伝えていく努力をしていた。

残念ながら教育界でも人材不足はあり、若い教師が増えており、教師が熱い思いを持っているばかりではなく、仕事・職業として教師になる人も多く、辞めていく人も多い。教師の感性を促すために、会長の話を教員のための教育にしたい。二つ目に「性を見直すことは命を見つめ直すこと」は、人間を愛することを見つめなおす機会を教師も考えるべきと、心理的成長のために大事と思った。予算が無い中、無償で大変申し訳ないが若い教員に会長の講演を聞かせたいと思った。

柳堀会長：自分としては消化不良なこともある。子ども達ももっと聞きたいこともあったと思う。しかし、子どもはすごくて、先のことを感じ取ってくれる。1つのエピソードで、診察の時に講演を聞いた子から話を聞いた母親から、ありがとうと言われた。講演後帰宅して帰った子どもが急に「お母さん、産んでくれてありがとう」と言われたと。子ども達は感受性が高い。自分は感想をみて元気をもらっている。講話を今後も継続したい。

話は以上で、事務連絡に進む。事務局から話がある。

5 事務連絡

事務局松枝：今年度は4回の会議を予定している。2回目は、各委員の活動内容や、その中で感じている今の思春期の子どもや保護者の方の現状と課題について教えていただき、共有したいと考えている。2回目の会議日程は、後ほど決めさせていただくが、9月頃を予定している。準備をお願いしたい。

3回目は、引き続き2回目の現状と課題の話し合いを深めたり、思春期保健に関する活動をされている方で、ぜひ話を聞いてみたいという方を呼んで情報

交換の場にしたいと考えている。最後の4回目は、次年度の活動について話し合う予定です。3回目までの会議で共有した課題について、どのように取り組んでいくか検討したいと考えている。

事務局長谷川：中学生向けリーフレットについて報告とご相談がある。添付資料3を参照。今年も中学1年生とその保護者を対象に相談先を周知するリーフレットを配布する予定。リーフレットの掲載内容は、情報を確認して最新のものを乗せている。

保護者向けアンケートについて、思春期のお子さんを持つ保護者の方に直接意見を聞ける機会として捉え、内容を見直した。質問項目1番～4番までは、例年と変更はないが、5番目の自由記載の質問文に、「思春期のお子さんに関する悩み」を追加した。今年度は、この内容でアンケートを実施してよろしいか。

事務局川崎：今までの自由記載で、殆ど記入されることがない。しかし昨年の学校現場アンケートでも特に意見がないので、保護者からの意見を具体的に聞ける場として、この機会を使ってアンケートを取りたいと考えた。

柳堀会長：皆さんから意見をいただきたい。これは中学何年生に配布か。配布数はどのくらいか。

事務局長谷川：中学1年生、中学生と保護者併せて1,700部くらい。

茅島委員：アンケートへの意見で、リーフレットに性別違和のことが書かれているので、アンケートも回答しやすい様に丸を付けられる方が良い。悩みと書かれていても、具体的に項目がないと書くのが難しい。項目があった方が統計も取れる。

柳堀会長：他に意見あれば1週間以内にメールを。その他、各委員から周知等あるか。

内田委員：第1回家庭教育講演会が7月3日にある。2回目が思春期の保護者への内容で、11月頃予定。広報等で周知する。

柳堀会長：2回目の講演が決まったら、早めに委員に周知を。次回の予定は。

事務局松枝：次回の会議は、9月頃に予定している。

柳堀会長：次回の話は今後決めるが、各団体で2グループぐらいから話をしてもらえたらと思う。ネットワークの第2章の始まりと考えて、これから一緒に考えてほしい。

以上